

弾道ミサイル落下時に 取っていただきたい行動の例 (避難訓練の場面から)

内閣官房副長官補（事態対処・危機管理担当） 付



弾道ミサイル落下時の 行動について

弾道ミサイルは、発射からわずか10分もしないうちに到達する可能性もあります。ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、国からの緊急情報を瞬時に伝える「Jアラート」を活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、緊急速報メール等により緊急情報をお知らせします。

①速やかな避難行動

②正確かつ迅速な情報収集

行政からの指示に従って、落ち着いて行動してください。



国民保護ポータルサイト

武力攻撃やテロなどから身を守るために



事前に確認しておきましょう。

http://www.kokuminhogo.go.jp/gaiyou/shiryou/hogo_manual.html

ミサイル落下時には、こちらから政府の対応状況をご覧になれます



首相官邸
ホームページ
www.kantei.go.jp/



Twitterアカウント
首相官邸災害・危機管理情報
@Kantei_Saigai



Jアラート（例）直ちに避難。直ちに避難。直ちに建物の中、又は地下に避難してください。ミサイルが、●時●分頃、●●県周辺に落下するものとみられます。直ちに避難してください。

メッセージが流れたら

落ち着いて、直ちに行動してください。

屋外に
いる場合

近くの建物の中か
地下に避難。

（注）できれば頑丈な建物が望ましいものの、近くになければ、それ以外の建物でも構いません。

建物がない場合

物陰に身を隠すか、
地面に伏せて頭部を守る。

屋内に
いる場合

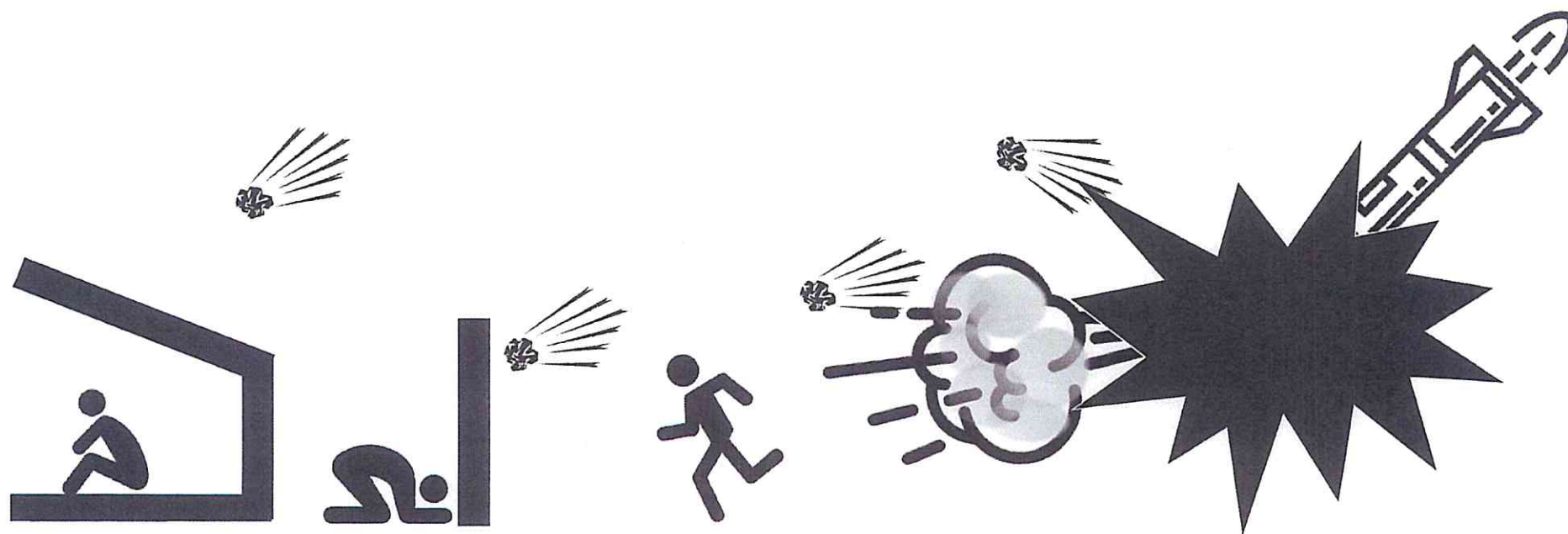
窓から離れるか、
窓のない部屋に移動する。

近くに
ミサイル
落下！

- 屋外にいる場合：口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内または風上へ避難する。
- 屋内にいる場合：換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

弾道ミサイル落下時における避難の必要性について

- 弾道ミサイルによる攻撃の被害の様相は、その弾頭の種類に応じて異なりますが、弾頭の種類に関わらず、弾道ミサイル着弾時には、爆風や建物等が破壊されたことに伴う破片などが発生します。
- こうした爆風や破片などによる身体への被害を避けるため、状況に応じた避難行動を取る必要があります。



弾道ミサイル落下時における避難の必要性について

- 弾道ミサイルは極めて短時間で我が国に着弾することが予想されるため、避難行動の時間が限られることから、速やかに以下のような状況に応じた避難行動を取る必要があります。

【屋外にいる場合】

ミサイル着弾時の爆風や破片などによる被害を避けるため、近くの建物の中か地下に避難する。

【建物がない場合】

ミサイル着弾時の爆風や破片などによる被害を避けるため、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。

【屋内にいる場合】

爆風で壊れた窓ガラスなどで被害を受けないよう、できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。

屋外にいる場合（近くに建物があるとき）

以下、今までに実施された弾道ミサイルを想定した住民避難訓練における様々な場面での避難行動の例を紹介しますので、参考にしてください。

学校



近くの建物へ
避難



窓から離れ、
身を守る姿勢
をとる。



近くの建物へ
避難



窓から離れ、
身を守る姿勢
をとる。



屋外にいる場合（近くに建物が無いとき）

その他



その場で伏せて、頭部を守る。



塀に身を寄せて、頭部を守る



コンクリートに身を寄せて、頭部を守る。



遊具の中に身を隠す。



ベンチの下に身を隠す。



駅構内で隙間に身を隠す。



スロープの下に身を隠す。



コンクリート製のトンネルに避難する。

屋内にいる場合

小学校の教室



窓から離れる。



机の下で身を守る姿勢をとる。



自宅



窓から離れる。



窓のない廊下に避難し、身を守る姿勢をとる。



オフィス



窓から離れた廊下に出て、身を守る姿勢をとる。または、机の下に身を隠す。

